

海外選手が福地まがと(左)と、会場を走るのハートウォーミングな瞬間を捉えた。二福新聞提供



大会を支えるボランティア

(いずれも昨年の大会から)



男子単メーンで3連覇を達成した国枝慎吾選手(中央)と大会スタッフ



タオルをコートに並べ雨を吸い取るボランティア



海外選手に弁当などを振る舞う福祉ボランティア

車いすテニスの歩み

- 1976年 米国で車いすテニスが発生源
- 85年 飯塚で第1回大会が開催される
- 92年 パルセロナパラリンピックで正式種目に採用される
- 98年 国際車いすテニス連盟(ITF)に統合。ITFは「男子」「女子」「車いす」の3部門となる

- 2002年 第18回大会で、斎田悟司選手が日本人で初めて、男子単メーンを制覇
- 04年 飯塚大会が国内最高峰ランクの「スーパーシリーズ」に昇格
- 06年 男子単メーン決勝戦で初の日本人対決。国枝慎吾選手が斎田選手を破り、初制覇
- 08年 国枝選手が北京パラリンピックで金メダルを獲得
- 09年 飯塚で第25回大会を迎える



人間に限界ない

健常者の意識変化

高橋氏 障害者スポーツは人間に限界なく、なんだと、そのパフォーマンスで教えられ、皆で上を目指すと、その姿勢は障害の有無にかかわらず、すべての人に感動を与えたい。元オリンピック選手の自らの目で障害者スポーツの魅力を見た。

大林氏 かつては障害者スポーツを特別な目で見られていた。今の仕事で競技に取り組む真剣さに触れると、そんな思いがなくなった。パラリンピックの選手もオリンピックの選手も同じアスリートだし、逆境に負けないその精神力の強さを、オリンピック選手の方が尊敬すべきだ。

角田氏 健常者は障害者を見て、「つい、手助け

高橋氏 大会は今年で25回。失礼な言い方もありますが、飯塚市という地方都市で、これほどの大会が継続できた理由は何が、角田氏 人情に厚い国民が関係しているのではないかと。大会は延べ8000人の市民ボランティアで運営され、費用も市民企業

高橋氏 大会は今年で25回。失礼な言い方もありますが、飯塚市という地方都市で、これほどの大会が継続できた理由は何が、角田氏 人情に厚い国民が関係しているのではないかと。大会は延べ8000人の市民ボランティアで運営され、費用も市民企業

飯塚から広げよう

高橋氏 大会は今年で25回。失礼な言い方もありますが、飯塚市という地方都市で、これほどの大会が継続できた理由は何が、角田氏 人情に厚い国民が関係しているのではないかと。大会は延べ8000人の市民ボランティアで運営され、費用も市民企業

高橋氏 大会は今年で25回。失礼な言い方もありますが、飯塚市という地方都市で、これほどの大会が継続できた理由は何が、角田氏 人情に厚い国民が関係しているのではないかと。大会は延べ8000人の市民ボランティアで運営され、費用も市民企業

高橋氏 大会は今年で25回。失礼な言い方もありますが、飯塚市という地方都市で、これほどの大会が継続できた理由は何が、角田氏 人情に厚い国民が関係しているのではないかと。大会は延べ8000人の市民ボランティアで運営され、費用も市民企業

国枝氏 北京以降、マスコミが障害者スポーツを報ずる姿勢も、「福祉」から「スポーツ」に変わって来た。僕たちにとっては大きな前進。

角田氏 選手たちの成長はわれわれの想いだった。車いすテニスもリハビリから競技へと変化した。選手たちの活躍、特別な感動という偏見を取り払ってあげたい。